



新教育課程の実施に向けて！ No.8

—新教育課程説明会より【小学校・中学校 総合的な学習の時間】—

新学習指導要領の理念や基本的な考え方を基に、各学校、各教室で学習が展開されていくためには、改訂の内容について全教職員が正しく理解していることが不可欠です。

今号では、小学校・中学校の総合的な学習の時間について、改訂のポイントを掲載します。小学校から中学校への学びの系統性を踏まえた指導に向けて、各学校で周知をお願いします。

★ **総合的な学習の時間は、平成21年度から先行実施！**

★ **各学校で目標や内容を適切に定め、
創意工夫を生かした特色ある取組の推進を！**

1. 総合的な学習の時間における目標

横断的・総合的な学習や**探究的な学習**を通して、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探求活動に主体的、創造的、**協同的**に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

2. 各学校で定める目標

各学校では、第1の目標を踏まえ、
総合的な学習の時間の目標を定める。

第1の目標（以下の5つの要素）をすべて踏まえることが必要

- (1) 横断的・総合的な学習や**探究的な学習**
- (2) 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力の育成
- (3) 学び方やものの考え方
- (4) 問題の解決や探求活動に主体的、創造的、**協同的**に取り組む態度
- (5) 自己の生き方を考える

3. 育てようとする資質や能力及び態度の設定

例（学習方法、自分自身、他者や社会とのかかわりに関する事などの視点を踏まえて設定した場合）

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会とのかかわりに関すること
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を発見し、設定する。 ・解決の方法や手順を考え、見通しをもって計画を立てる。 ・必要な情報を収集し、分析する。 ・わかりやすくまとめ表現する。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの行為について意思決定する。 ・目標を設定し、課題の解決に向けて努力する。 ・自らの生活を見直し、実践する。 ・自己の将来を考え、夢や希望をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる意見や他者の考えを受け入れる。 ・他者と協同して課題を解決する。 ・身の回りの環境とのかかわり考えて生活する。等

(例) 目標実現のためにふさわしいと考えられる学習課題と対象【小・中学校】

4. 各学校において定める内容の設定

各学校で、第1の目標を踏まえ、総合的な学習の時間の内容を定める。

職業の選択と社会への貢献、働くことの意味や願い等

職業や自己の将来にかかわる課題

【中学校のみ】

外国の文化、身近な自然環境と環境問題、キャリア教育、食育、安全教育等

横断的・総合的な課題(国際理解、情報、環境、福祉・健康)

ものづくり、将来への展望とあこがれ、生命の神秘や不思議さ等

児童生徒の興味・関心に基づく課題

地域の伝統、文化、行事、生活習慣、産業、経済等、地域や学校に固有な課題

地域や学校の特色に応じた課題

5. 全体計画の作成

全体計画及び年間指導計画の作成に当たっては、学校における全教育活動との関連の下に、

- ・目標及び内容、
- ・育てようとする資質や能力及び態度、
- ・学習活動、指導方法や指導体制、
- ・学習の評価計画

などを示す。

事例

② 必須の要件として記すもの

- ・各学校において定める目標
- ・育てようとする資質や能力、態度
- ・内容

① 基本的な内容や方針を概括的に示す

- ・学習活動
- ・指導方法
- ・指導体制
- ・学習の評価

③ 学校が全体計画を示す上で必要と考えること

- ・教育目標
- ・年度の重点
- ・地域・学校・児童生徒の実態
- ・保護者、地域、教職員の願い
- ・各教科等との関連
- ・地域との連携
- ・中学校との連携
- ・近隣小学校との連携

6. 年間指導計画の作成

年間指導計画とは、全体計画を踏まえ、その実現のために、どのような学習活動を、どのような時期に、どのくらいの時数で実現するのかなどを示す。

児童生徒の学習経験に配慮すること

季節や行事など適切な活動時期を生かすこと

十分な見通しをもった周到な計画にすること

各教科等との関連を見通すこと

学校間の関連を見通すこと

外部の教育資源の活用及び異校種との連携や交流を意識すること

各学校では、総合的な学習の時間の趣旨やねらいを踏まえた適切な学習活動が行われるよう、学校全体で組織的に取り組み、指導計画や指導体制、実施状況について、点検・評価することを推進してください。

◆ 特別活動の代替について

総合的な学習の時間において、学校行事と関連付けて体験活動を実施することもあり得ます。

しかし、その場合でも必ず総合的な学習の時間の目標及び内容を踏まえたものであること、問題の解決や探究活動の過程に位置づいていることに十分配慮しなければなりません。そして、その上で、実際に総合的な学習の時間の要件を満たす活動の時数だけを算出して、総合的な学習の時間の時数として計上することが求められます。

◆ 修学旅行との関連を図る場合(例)

